

令和5年3月吉日

世田谷区立桜小学校
校長 西田 香 様

世田谷区立桜小学校
学校評価委員会

令和4年度 学校関係者評価報告書

<学校関係者評価委員>

委員長： 下山裕介

委員： 須藤美子， 中村幸子， 野村敦司， 山田和美（五十音順）

<特記事項>

新型コロナウイルスの感染対策の緩和により、一部の学校行事・学校生活での通常となる一年となった。

<学校関係者評価委員活動>

令和4年 10月：第1回評価委員会（独自項目の決定）

令和5年 1月：教員ヒアリング

令和5年 3月：学校関係者評価報告書 作成・提出

<学校関係者アンケート集計結果分析>

児童共通評価項目

- ・ 先生が分かりやすい授業を実施しているかの質問において、5、6年生ともに90%以上が肯定的な回答であった。
- ・ 先生の児童に対する注意について、5、6年生ともに75-78%が肯定的な回答であったが、否定的な回答が13-19%であった。
- ・ 授業における先生の板書、プリント等の工夫には、児童の満足度は高く感じられた。
- ・ 学校行事に対する質問では、6年生では90%以上が「楽しい」との回答であった一方、5年生では14%が否定的な回答であった。
- ・ 児童に対する質問において、「自分の将来への夢や希望に対して肯定的な回答が、6年生では69%、5年生では61%とやや低かった。
- ・ コロナ感染対策の緩和が始まる中、学校の友達と協力し合っている質問に対して、5、6年生ともに肯定的な回答が70%程度とやや低かった
- ・ 家族、近所の方、地域の方へのコミュニケーションに関する質問では、5年生では20%程度、6年生では15%が否定的な回答であった。

地域共通評価項目

- ・ 前年度同様に、肯定的・好意的な回答が多かった。
- ・ 学校行事への充実度、学校の重点目標の明確さ、安心・安全な学校づくりに対しては、90%以上が肯定的な回答であった。
- ・ 学校行事におけるコロナ禍の対応や情報発信・案内について、否定的な回答が12-16%であり、地域への情報提供がやや不十分であるように感じられた。
- ・ 今後の学校行事への参加および協力を前向きであった。
- ・ 学校生活における安全性の確保において、地域との協力を賛同が得られていた。

保護者共通評価項目

- ・ 学校行事に対する満足度、達成感に関する質問において、90%以上の高い肯定的な回答であった。
- ・ 学校からの情報提供について、様々な便りによる情報提供に対しては非常に高い満足度が見られた一方、「学び舎」の区立中学校の情報提供については、28%が否定的な回答であった。
- ・ 学校での過ごし方、ルールに対する先生の指導について、15-18%の否定的な回答があった。
- ・ 学校公開への参加に対する質問では、84%の肯定的な回答であったが、PTA や地域行事への

参加に対する質問においては、23%の否定的な回答があった。

- ・ 避難訓練、セーフティ教室などの安全教育については、非常に高い理解が得られていた。

学校独自アンケート

- ・ 昨年度に引き続き、「プロジェクト桜」に対して理解・把握している家庭は少なく、「プロジェクト桜」を知っているかの質問に対して、39%のみが肯定的な回答であった。
- ・ 家庭におけるあいさつ、ゲームやスマホの使用に関するルールに対しては、児童と話しかけられている様子が感じられたが、家庭での児童の役割やお手伝いについては、昨年度同様、消極的であった。
- ・ 集団生活における協調性の大切さは、家庭においても児童によく伝えられていた。
- ・ 家庭における児童の良い点や努力に対しては、90%以上の肯定的な回答が得られており、日頃より褒めるよう心がけられていた。
- ・ 近所や地域の方への挨拶する姿は、保護者から児童へ見せようとする姿勢が強く、95%と非常に高い肯定的な回答であった。
- ・ 桜小学校の行事目的への理解に関する質問では、13%の否定的な回答があった。
- ・ 保護者の地域や学校と協力した子育てに関する質問では、20%の否定的な回答があった。

自由記述

- ・ 児童に対する楽しい学校生活、ならびに学校行事における経験に対して、学校ならびに先生方へ感謝の意が示されていた。
- ・ 学校生活、授業中における児童に対する対応について、改善を要求する意見があった。
- ・ タブレットを用いた学習、使用方法のルールについて、より明確にする意見があった。
- ・ 学校行事における先生方の工夫した活動を、満足度の高い意見が複数みられた。
- ・ コロナ対策を施しながらも、可能な形で学校行事を実施した点に感謝の意が示されていた。

<学校関係者アンケートを通じての考察>

新型コロナウイルス感染への対策も緩和の方向に向かい、一部の学校生活・行事における制限も解除されている中で、昨年度同様に児童たちが楽しく学校生活を過ごしている様子、さらには児童たちの楽しさ・経験に対する保護者の感謝が伝わってきた。学校行事や授業における先生方の工夫と、児童を喜ばせよう、楽しませようとする前向きな姿勢は、児童だけでなく、保護者にも十分に理解されていることがわかった。学校生活における児童が学校や友達との関係においても、児童同士、あるいは先生とのつながりを感じており、学校生活・学校行事で協力し合える環境が十分に構築されていると感じられた。

一部の保護者から、学校生活や授業中における児童への対応の改善を求める意見があったが、先生方の教育活動・学校行事に対する感謝の意を表している意見も多数あった。

アンケートを通じて、学校と児童、学校と地域とのつながりや連携が、保護者にもしっかりと理解されており、桜小学校の特徴である地域とのつながり・協力が、子育てに役立てられている

ことが伝わった。

<教員ヒアリングを通じての考察>

先生方にグループヒアリングを実施し、以下の点について質問させて頂いた。

- (1) コロナ感染初期と現在を比較して子供たちの雰囲気にはどのような違いがあるか？
- (2) 保護者の学校に対する協力
- (3) 学校生活サポーターで助かっている点

(1)について、マスクの着用とタブレットの使用についての回答が多かった。

まずマスクの着用に児童が慣れており、学校生活においてマスクを外したときに戸惑いをみせる児童が一部いるようであった。特に、行事や集会で児童が集まる機会が少なかったため、マスクを着用した状態が日常的となっており、コロナ感染時から今後もマスク着用の生活は続くと考えられていた。

タブレットの使用について、コロナ禍における授業を進める上で必要となるため、タブレットが配付され、文書の編集がしやすい、動画を用いた授業といった、タブレットが児童への教育に役立っている点があると意見が多かった。しかしながら、児童のタブレットの使用・管理については、早急に改善する必要があるという意見が多かった。勉強以外、休み時間においてもタブレットを手放すことができない児童も一定数みられ、タブレットの操作にのめり込む児童が増加している傾向にある。必要な時間のみ、タブレットが使用できるような管理システムも提案されていた。

(2)について、全般的に協力してくれる保護者が多いとの印象であった。特に学校行事における保護者の協力が非常に大きいことが、桜小学校の特徴でもあると、心強い意見もあった。児童の宿題に対しては、保護者のケアをもう少し頂きたいという先生方からの意見があった。熱心に宿題を確認して頂ける保護者も一定数いらっしゃるが、お忙しいご家庭もあり、児童同士の勉学に差が生じることへの懸念も挙がっていた。授業を観に来られる保護者の数は、年々増えており、児童の学習に対する保護者のケアも高まっている傾向であると意見があった。

(3)について、クラス担任が目の行き届かない状況において、学校生活サポーターの方が積極的に対応頂くことは、児童のケアだけでなく、授業の進行においても非常に助かっているとの意見があった。また、放課後に学校生活サポーターの方とお話できる機会も、クラス担任にとってありがたいとの意見もあった。

上記以外のフリーディスカッションにおいて、タブレットの使用ルールを、学校と家庭で統一できないかと提案があった。学校生活だけでなく、家庭でもタブレットの長時間使用のため、睡眠

時間が短くなり、翌日の授業の妨げになるケースがみられるようであった。タブレット使用のルールについては、早急な対応が必要と感じられた。

<総括>

アンケート結果の分析結果から、評価委員会として指摘すべき大きな問題はみられなかった。前年度同様に、学校行事や授業における先生方の工夫には、保護者からの感謝の意が多く感じられた。児童への対応に対して、心配されるような意見も一部あったが、全般的に教員の前向きな姿勢、熱意、工夫が、保護者に対して伝わっており、子供たちの楽しく充実した学校生活をつくっていると感じている印象であった。アンケートへの回答、自由記述からの先生方への好意的な支持、感謝の意見が多く寄せられていた。

教員のヒアリングからは、コロナ対策の緩和が進む中で、学校生活・行事の通常形式へ戻っていく環境の変化に加え、児童の生活態度の変化もしっかり注視されていると感じられた。配付されたタブレットにより、円滑な授業実施や、動画を用いた児童の関心を深める授業形式など、役立つ点もある一方、児童のタブレット依存への懸念が大きいように感じられた。児童のタブレット使用制限、管理方法については、即座に対応すべき事項として挙げられる。また、教員ヒアリングにおいて、教員からの意見が多かったことが、学校行事・生活における地域や保護者との連携が強固であることであった。今後も維持すべき特長であるとあらためて認識させられた。

このように、児童の学校生活・授業に対する教員の積極的な姿勢や、保護者や地域とのつながり・連携が強いという、桜小学校の特徴を大切に、本評価報告が子供たちのさらなる充実した学校生活の一助となることを願って報告とする。

以上